

第26回十勝新聞教育研究大会基調報告

大会主題 心を育て心をつなぐ新聞教育

～基礎・基本から応用・発展～

1：はじめに

新聞を作ることで、認め合ったり、励まし合ったり、勇気づけたり、書き手の思いが読み手に伝わります。読み手と書き手の「心を育て」さらに「心をつなぐ」作用が新聞にはあると考えます。それは、まさに「社会を生き抜く力を備えた、未来への飛躍を実現する人材としての資質や能力の育成」に繋がるのではないのでしょうか。

21世紀の確かな学力は8つの要素で構成されています。「思考力」「判断力」「表現力」は上部に、「学び方」「知識・技能」「学ぶ意欲」は下部に設定されています。これがバランス良く配置され、「課題発見能力」や「問題解決能力」を支えています。

「思考力・判断力・表現力」を育成するために各教科において「言語活動の充実」が重要視され、その一つの手段として新聞活用があります。単に知る・わかるだけでなく、その背景を考え、それに対する自分なりの意見を持ち、それを表現しながら社会への参画を考えていく力が、新聞教育によって育まれると考えます。この背景には、「キー・コンピテンシー（主要能力）」が国際基準の学力として認知されたことがあります。また、新聞にあるグラフや図を使い、内容を読み取ることが、思考力・判断力・表現力の向上に役立つこと、情報リテラシーの育成に新聞教育が有効であることも注目されています。

本研究大会では、これらのことを念頭に「新聞の良さ」をしっかりと活かせるような実践を積み上げ、新聞教育の充実と進展を図っていきたいと考えます。

2：新聞を生かすことで「21世紀型の学力」が育つ

21世紀型の学力は「社会を生き抜く力を備えた、未来への飛躍を実現する人材としての資質や能力」。21世紀型の学力は、文部科学省による「確かな学力」を包含するものです。確かな学力は、「知識や技能はもちろんのこと、これに加えて、学ぶ意欲や自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する資質や能力等までを含めたもの」と文部科学省は定義しています。

新聞は全教科の中、全教育活動で活用することができます。国語科では、レポートの書き方、グループ新聞や、学級新聞づくり、インタビューの仕方、投稿の読み比べなどが具体的に学習内容として教科書に示されています。他教科でも歴史新聞をつくる、新聞から情報を得たり、報道体制を知ったりなど多岐に渡って活用方法が重視されています。それは、新聞が扱う豊かな分野は「社会」「政治」「産業」「国際」「司法」「歴史」「科学」「芸術」「スポーツ」。新聞が持つ豊かな要素は「記事」「社説」「コラム」「解説」「投書」「連載小説」「マンガ(風刺画)」「広告」と幅広い分野と要素が含まれているからです。ですから、新聞を生かすことで「21世紀型の学力」が育つと考えられます。

また、21世紀型学力の実現に向けて、学びへの興味と努力し続ける意志を喚起するため、課題の発見・解決に向けた協働的学び(アクティブラーニング)を進めることが求められています。新聞を活用した授業づくりは、能動的な学習への参加を取り入れた学習法となり、アクティブラーニングを取り入れた授業の一つとなります。このことにより子供達が主体的に判断し、問題解決する資質や能力が育つのではないのでしょうか。

しかし、現状を考えると、必ずや新聞づくりや新聞活用を各教科で取り入れ、授業に活用しているという状況にあるでしょうか。

21世紀型学力及びアクティブラーニングを学校内でどのように連携し組織的に取り組むか、あるいは、それぞれの教科でどのように新聞づくりをするか、新聞を活用し、指導目標の具現化を図るかなど非常に難しさを感じます。新聞教育を推進する上で次のような課題が考えられます。『新聞づくり』の点で①新聞づくりの方法がわからない②新聞づくりの時数確保③新聞づくりあきの授業になってしまう。

『新聞活用授業』の点で①新聞を活用しやすい教科の片寄り②授業に適した記事の精選③児童・生徒の新聞の読み取り能力④授業に適した記事の確保。などが考えられます。

児童生徒が「新聞に親しみ」、「新聞をうまく活用し」、「新聞にまとめることができる」ように授業の工夫が必要だと考えました。

本研究大会においては、新聞を活用した「道徳」の授業を提案いたします。命あるものを大切することについて、記事を活用し、子ども達の「思考力・判断力」を高めます。さらに授業で取り扱う記事を書いた記者をゲストティーチャーとして招き、子どもたちの「学ぶ意欲」を高め、「命」について一人ひとりが深く考えることができるような授業を提案いたします。

3：「21世紀型学力」を育てる新聞を効果的に活用するために

毎日送られてくるニュースの中から、授業で取り上げる記事に気づく「嗅覚」と、教材化する「構想力」を鍛えることが重要です。そこで、誰もが新聞を活用した授業ができるように十勝新聞教育研究会では、「新聞活用授業」「スクラップ新聞の作り方」を課題として学習会を開いてきました。十勝毎日新聞社、北海道新聞帯広支社と連携し、指導方法を研究したり、実技をしてみたり、指導案を作成したりしています。授業作りにあたり、次の点に重点を置いています。

①多くの先生方と共有できる授業作り

②教育課程の位置づけを明確にした授業作り

③言語活動を取り入れた授業作り

④新聞を使った効果が認識できる授業作り

さらに、授業がその時間だけの単発ではなく、系統性があり、意図的・計画的に指導計画を組み立てた授業を目指し、子どもたちにとって身近な教材を準備することを目指し、新聞教育のための授業ではなく、新聞は目的を達成するための一つの方法であるということを念頭に授業案作りを行っています。地元の十勝毎日新聞社や北海道新聞帯広支社との連携は、身近な記事の収集、教育関係者外の方の考え方を知る上で大変重要となっています。

4：おわりに

北海道十勝新聞教育研究会は、創立26周年目を迎えました。その間、全国大会で実践を発信したり、ご指導をいただきながら研究を積み重ねてきました。毎年開催されている研究大会では、授業公開・研究協議・実践発表・新聞づくり講習会などを実施しています。新聞教育は、学習を充実させるために誰でも実践できる手段だと考えます。本研究会に参加された方が、「新聞を活用したい」「新聞で実践してみたい」と思えるような授業提案や実践提案をこれからもしていきたいと考えています。ご参加いただいた皆様のご協力と、熱心な討議により、今大会が実り多いものになることを期待し、基調報告といたします。